

令和7年度第1回春日井市地域自立支援協議会に係る事前質問と御意見

質問者	資料No.	質問内容	回答者
興石委員	資料10-1 【御意見】	単身で生活する障害を持つ本人が、自宅内で転倒し対応に窮する事があり急変時支援できるよう普段からのネットワーク作りが重要とありましたが介護者が転倒し動けず親子共々自宅遭難になりとても困った事を思い出しました。本人のみのネットワークではなく介護家族に対しても急変時対応のネットワークがあると安心が増えるような気がします。	
山本委員	資料10-2 【御意見】	「軽度知的障がいや精神障がいのある方に対する金銭管理の困難さについて」スマホでゲームによる高額な電話料金請求などの話は聞きますが、借金があってもクレジットカードが契約できることや、スマホがあれば通帳がなくても借金ができるなどの事案を知り驚きました。 SNS社会の中で障がい者など弱者が陥る仕組みは極めて憂慮する問題です。当事者に一番近い親・家族も予防のために勉強する必要があると思います。諸事案を含め、専門家による講演会など勉強の場を作って頂くことを希望します。	
水野委員	資料10-2	かすがいの報告より、障がいがある高校3年生の方の妊娠判明から、堕胎に至った件に関して、出産もしくは堕胎というとても大きな選択をしなければいけなかったと思いますが、その際知的障がいがある本人に対してどのように意思決定支援を行ったのでしょうか？	かすがい
	回答	→先々のイメージをすることが苦手なご様子であり、支援者（学校、相談員、こども家庭支援課）がご本人の意向をお聞きする際は否定することなく、出産した場合・堕胎した場合それぞれの見通しをご本人の特性に合った伝え方で説明。特に、学校が寄り添い対応した部分が大きく、伝え方に偏りが無いよう複数の先生が本人へ説明したり、家庭訪問もしてくださっていた。それぞれの選択のイメージが理解できた時点で、ご本人から「堕胎する」と共有がありました。	
山本委員	資料10-3 【御意見】	まある 相談の傾向と所感にある「障害年金の不支給問題」は新聞報道にもありましたが、家族会会員も大変心配しております。 本来・受給できる人が除外されない審査体制・判定基準の見直し整備を願っています。	
浅野委員	資料10-3 【御意見】	「必要時」が対応としては非常に難しいと思われませんが、具体的な事例から連携方法のパターンを列举できるといいのかと思いました。	
興石委員	資料10-4 【御意見】	低年齢で医療的ケアもなく歩行ができるようになるかわからない子供について子育てセンター利用に保護者自身抵抗がありという言葉がありました先天性障害の子の親は生まれた時に「おめでとう」と言われる人は少ないと思います。早期対応した方がいいと言われても障がい児の親なんだと自分で納得し受け入れるまで待つしかないと思います。	
興石委員	資料12-2	【子供の支援の課題】 視覚障がい児が動き回る子が多く危険だから放課後デイサービス利用を断られたとありましたが、今その子はどうしているのでしょうか。20年位前に利用していた時も、発達障害児の中で肢体不自由児の子は寝ている状態でした。誤って指先等踏まれたらと考えると恐ろしくなり辞めてしまった経緯がありました。あの頃は肢体不自由児専門の放課後等デイサービスはニーズが無いから出来ないといわれたので利用は諦めました。いろいろな障害児がいてどんな子でも利用できる制度だと思うのですがこの文章を読むと疑問に思っていました。	しゃきょう
	回答	→上記のケースを担当している相談支援事業所にその後の経過を確認 いくつかの事業所を紹介しましたが、送迎等の別の理由で課題があり、放課後等デイサービスの利用には繋がりませんでした。地域の学校に所属はありますが、盲学校が主催している訓練に定期的に参加するようになりました。	
	資料12-2	【支援の難しさ】 子供と一緒に3人で施設に入りたいという要望が増えてきたという所で要望は叶えてもらっているのでしょうか？低額で入れるサ高住のようなものがあれば介護者が倒れて誰にも気づかれず親子共々不自然死の様な事は起きないのではないかと感じました。	しゃきょう
	回答	上記の意見が出た相談支援事業所に実態を確認。 →実際に親子で入居したケースはありません。施設の情報を提供しますが、いざ入居となると、親子それぞれの意向が合わなかったり、諸手続きの煩雑さから足踏みをされる方が多いです。障害を持った方の受け入れをして下さる住宅型有料老人ホームは増えており、受け皿は増えていると感じています。	

令和7年度第1回春日井市地域自立支援協議会に係る事前質問と御意見

質問者	資料No.	質問内容	回答者
夏目委員	資料14 【御意見】	「資料8 令和7年度春日井市地域自立支援協議会部会・連絡会の取り組みについて」の、医療的ケア児等支援部会の、令和7年度の具体的取組みについて 保健所は小児慢性特定疾病医療費助成の申請窓口となっており（2024年度 春日井市208人に助成）、医療的ケアが必要な方々等のうち必要な方について保健師等による個別支援及びピアカウンセリング事業を行っています。また、関係機関等連携会議についても開催しております。 今年度、医療的ケア児等支援部会で、全数調査結果から課題やニーズの分析が予定されているとのことです。是非、保健所（健康支援課）にも結果の共有をお願いいたします。また、研修会についても参考に案内をいただけるとありがたいです。	
山本委員	資料17	1 障がい者虐待に係わる通報・届出受付件数について 通報・届出のうち認定数合計で、R5年25件⇒R6年18件と減少し良い方向にあります が、R3年・R4年の認定数合計は何件でしょうか？	事務局 【資料20】
	回答	令和3年度は養護者虐待が5件、施設従事者が0件となります。 令和4年度は養護者虐待が5件、施設従事者が4件となります。	
山本委員	資料19 【御意見】	まある・他 地域課題について 「障がいの診断がついていない人、障がい分野の支援を拒否される人への支援」は心強く思います。 春日井市の精神障がい者保健福祉手帳を持つ人が年々増加していることへの懸念。 又、親・家族が困っても本人が拒否するため支援に繋がらないことも大きな悩みです。	